

① 学習指導案

プログラム	No. 11 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全2時間)	「地域を語ろう」 ～地域の人々がつながり合って、よりよい濁川地区にするためにはどうすればよいか～
学習のねらい	地域の方々とともに、SDGsの視点から地域について考え、提言する活動を通して、地域のよさに気づき、地域の担い手としてまちづくりに関わる意識を高める。
学習内容	1 それぞれが考える地域のよさや課題を意見交換する 2 よさを生かしたまちづくりのアイデアを話し合う 3 各グループの提言を発表する 4 学びの振り返りを行う
参考資料	・各自が夏休みに書いた「地域のチカラでつくるしあわせな濁川」についての作文
準備品	・模造紙、プロッキー、iPad (ZOOM用)、大型ディスプレイモニター
実施場所等	・12教室に分かれ、少人数でファシリテーションを行う。 全体進行や発表は、各教室をZOOMでつないで行う。

学習の流れ

※CO (地域教育コーディネーター)

時間	学 習 活 動	地域・COの動き
13:05	リーダー会議 ファシリテーター(3年生)として、話し合いのテーマや流れを確認する。 1. 活動場所の設営 2. 道具の配付 3. ファシリテーションの手順の確認 4. ZOOMの接続について	地域の方来校 受付(CO) 健康チェック 名札配付 控室へ誘導
13:25	集合 メンバー確認 3年生はメンバー確認を行う。 地域の方の出欠確認(教室担当職員)	地域の方は名札をつけて参加
13:30	ファシリテーション 1. 開会の言葉(副会長) 2. 生徒会長の言葉 3. 活動開始の合図(CO) 4. ファシリテーション開始  【テーマ】 地域の人々がつながりあって、よりよい濁川地区にするためにはどうすればよいか。SDGsの視点から考えよう。	ZOOMによる 司会進行(CO)

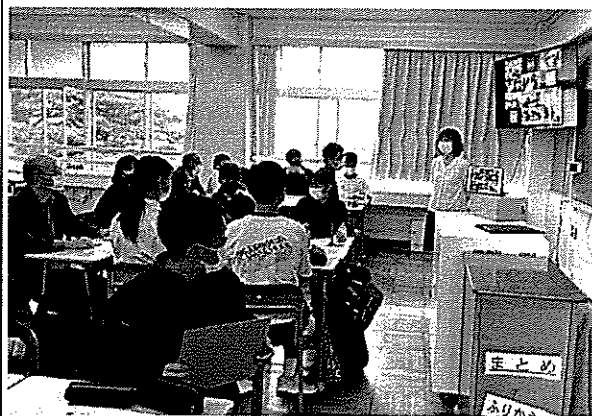
		①地域のよさと課題について ②目指す地域の姿 ③まちづくりのアイディアの検討 話し合いの内容はライターが模造紙にまとめる	
14:20	休憩	発表準備	
14:30	発表	5. まちづくりの提言の発表（各教室） 模造紙をもとにファシリテーションの内容やまちづくりの提言を発表する。 6. 代表グループ全体発表（ZOOM） 7. 地域の方々へのインタビュー 8. 副会長振り返りの言葉 9. 閉会の言葉	進行（CO）
15:00	振り返り	10. 振り返りシートの記入	地域の方は控室で振り返りアンケートに記入（CO）

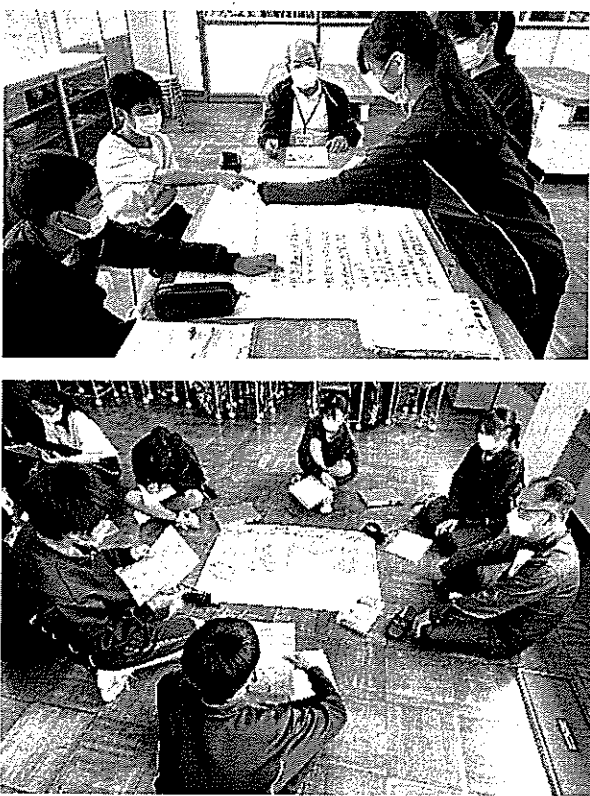

※話し合いの内容や地域の方々の感想等は学校ホームページおよび学校だよりで発信する。

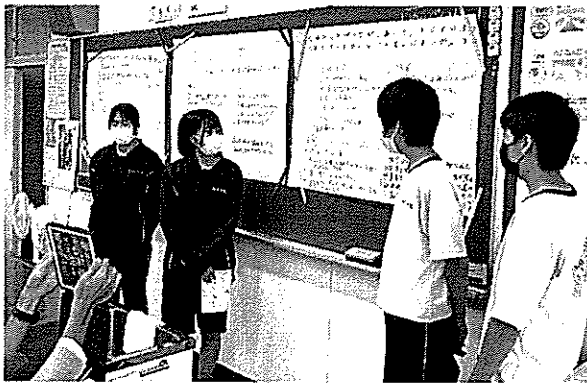
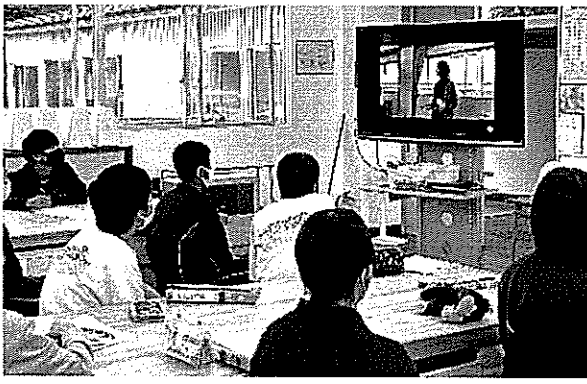

② 事業実施報告書詳細

学校名 新潟市立濁川中学校

時間	場所	概要・活動記録(写真)	対象者の反応
昼休み 13:05	各教室	3年生がファシリテーターとして、話し合いのテーマや流れを確認する。 会場設営をグループごとに行う。	レイアウトについては教室ごとに判断し、机を寄せたり床に車座になったりした。
5限 13:25	各教室	地域の方を案内し、互いに自己紹介を行う。 ※地域の方は、地域回覧したチラシや地域掲示板のポスターを見て参加。	地域の参加者は35名、参観も入れると60名を超えた。 グループごとに大人1名が入ってスタートした。
5限 13:30	全体	1. 開会の言葉(副会長) 2. 生徒会長の言葉 3. 活動開始の合図(CO)	地域教育コーディネーターが全体進行を担当し、校内放送やZOOMを活用して進行した。
5限 13:35	各教室	4. ファシリテーション開始 【テーマ】 地域の人々がつながりあって、よりよい濁川地区にするためにはどうすればよいか。 SDGsの視点から考えよう。  ①地域のよさと課題について ②目指す地域の姿 ③まちづくりのアイデアの検討	自己紹介をした後に、テーマに沿って考えを述べ合った。地域住民により、多様なものの見方が提示され、生徒の考えが深まっていく様子がみてとれた。

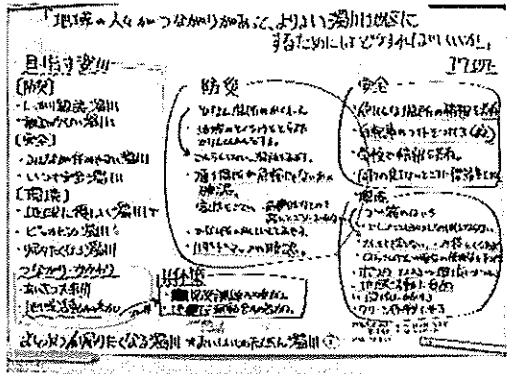
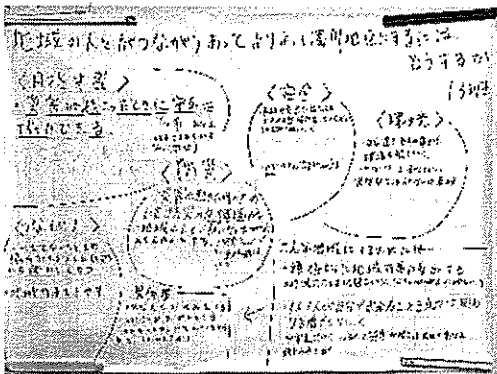
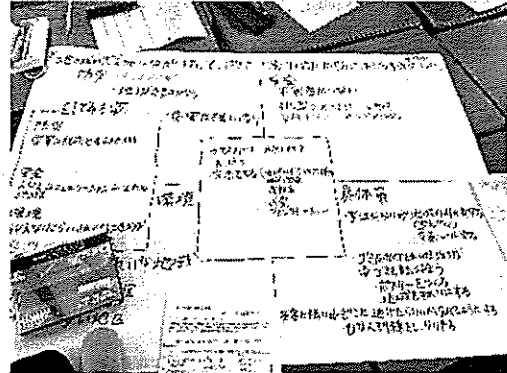
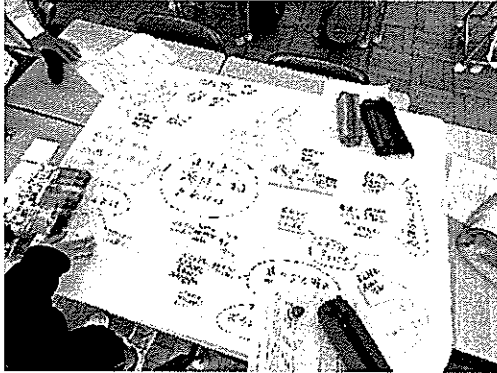


		 <p data-bbox="517 1079 1013 1115">話し合いの内容は模造紙にまとめていく。</p>	<p data-bbox="1118 277 1337 698">ファシリテーションの進め方は各グループに任されていて、模造紙に直接書いたり、付箋を活用したり、表組にしたりと、生徒らの日常の学習経験が活かされていた。</p>
<p data-bbox="272 1169 370 1236">6限 14:30</p>	<p data-bbox="389 1169 475 1191">各教室</p>	<p data-bbox="517 1169 1102 1281">5. まちづくりの提言の発表（各教室） 模造紙をもとにファシリテーションの内容やまちづくりの提言を発表する。</p> 	<p data-bbox="1118 1169 1337 1886">発表前の休憩時間には、わかりやすくどのように発表するか検討や練習をする生徒の姿があった。 限られた時間の中での話し合いであったが、まちづくりの提言として発表できたグループが多くあった。提言に至らなかったグループも、話し合った中で出てきた多様なアイデアを紹介できた。</p>

<p>6限 14:45</p>	<p>全体</p>	<p>6. 代表グループ全体発表（ZOOM） 全グループから4グループが全体発表を行った。 発表の様子は各教室にZOOMで配信した。</p> 	<p>12教室をZOOMでつなぐことはできたが、受け手側で音声がうまく入らない等のトラブルがあった。参加者の受け止めは、発表の様子が伝わった、ICTを活用してチャレンジ性が高くてよいといった肯定的なものが多かったが、今後の課題ともなった</p>
<p>6限 14:55</p>	<p>全体</p>	<p>7. 地域の方々へのインタビュー 参加した地域の方に参加してどうであったかインタビューした。</p>   <p>8. 副会長振り返りの言葉 9. 閉会の言葉</p>	<p>地域の2名から参加した感想等をお話しいただいた。その様子をZOOMで共有した後、教室毎に参加した地域の方々全員から一言ずついただいた。中学生は地域で力を発揮できる、話し合ったことを今日で終わりにしないことができることを一緒に考えていこう、といった内容が語られ、地域の一員として自分事と考えることを促すコメントを多くいただいた。生徒は真剣に耳を傾けていた。</p>

6限 15:05	各教室	10. 振り返りシートの記入 地域の方は振り返りアンケートに記入	生徒、地域の方々とも肯定的で、今後の地域と連携した活動につながるような記述が多くあった。
-------------	-----	-------------------------------------	--

ファシリテーションの紙面



### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>「地域の子カラでつくるしあわせな濁川」と題して、夏休みに全校生徒が作文課題に取り組んだ。SDGsの視点を取り入れ、だれもが住み続けたいと思うしあわせな地域であるためにどうすればよいかを考えた。作文からは、緑豊かな景観や、濁川の名物であるトマトをはじめとした産業、職場体験や地域ボランティアで触れた地域の方々とのあたたかいつながりを大切に思う生徒の姿が読み取れた。これらを踏まえて、ファシリテーションのテーマに「人と人とのつながり」を織り込むこととした。また、サブテーマとして生徒や地域から関心の高かった「環境」「安全」「防災」を設定した。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>コロナ禍での地域の方々とのファシリテーションということで、GIGAスクールで整備されたICT環境を活用した。12の教室に分かれ、教室毎に3、4グループ15人程度と密にならないようにした。他の教室との情報共有にはZOOMを使い、まちづくりの提言発表や地域の方々へのインタビューの様子を配信した。全体進行は校内放送を活用し、ZOOMの画面に注目するタイミングをはかって進行したが、音声や映像の切り替えがスムーズにいかない教室もあった。</p>
<p>(3) 生徒の反応</p> <p>生徒の関心と地域のニーズが合致したテーマとなり、ファシリテーションはどのグループも活発に進められていた。自分の考えが地域の大人に肯定的に受け入れられる経験は、生徒の自己肯定感の向上につながるものと実感している。また、地域に住む大人ならではの視点の提示に、視野がひらけていくように感じた生徒も多かった。活動の振り返りには、美しい景観の維持も、まちの安全も、防災活動も、どれも人と人とのつながりの中でなされているという気づきを記載している生徒が多くいた。自分も地域の担い手の一人であると、まちづくりを自分事としてとらえている生徒もいた。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>地域教育コーディネーターと連携することで地域人材との多くの出会いがあった。話し合いのテーマが地域のニーズに合致していたことにより、自治会をはじめ消防士やケアマネジャー、地域の支えあいのしくみづくりに取り組む方々といったさまざまな立場からの参加があった。職員にとって多面的な視点で地域を見る機会となるとともに、地域への理解や地域の方々との交流を深めることができた。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔生徒の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>生徒は、大人と対等に話し合った経験を通して、自分たちが行動することで地域に貢献できるという感触を得ることができた。今後は、今回の取組で得た新たな地域人材とのつながりをいかしながら、生徒からの地域への提言を発信するとともに、提言を地域と協働して実現していくことに取り組みたい。地域と協働する教育活動を通して、自分事として地域にかかわっていく生徒の育成を目指す。</p>